

社会資本総合整備計画（防災・安全交付金） 事後評価書

令和4年3月23日

計画の名称	39 膳所駅へのアクセス向上により安全で円滑なネットワーク形成を図るまちづくり（防災・安全）		
計画の期間	平成25年度～平成29年度（5年間）	交付対象	大津市
計画の目標			

- ・駅勢圏内各地区から交通結節点である膳所駅へアクセスできる交通手段の確保、及び各交通手段から円滑な乗換え動線を確保する。さらに、来訪者へ地域らしさを印象付ける景観形成等を意識し、駅及び駅前広場の空間づくりを行う。
- ・駅前広場、駅南北間、橋上駅とをバリアフリー動線で結ぶことにより、通勤通学や買い物等を目的に膳所駅や周辺施設を利用される高齢者や障害者、ベビーカーの親子などの方々が、膳所駅を安心して利用できる条件や、駅南北間を自由に往来し、周辺施設を利用できる環境を整える。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・南北連絡道路の築造により、南北間の歩行者の往来にかかる時間を1分間短縮する。
- ・新南北連絡道路における、H30末の通路利用者数をH25当初と比べ2,260人増加させる。

定量的指標の定義及び算定式

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H29)							
南北間の歩行者所要時間を調査する。	3.32分	2.36分	2.36分							
南北連絡道路の利用者数を調査する。	0人	2,099人	2,260人							
全体事業費	合計 (A+B+C)	4,350 百万円	A	4,350 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業終了後、事業実施担当部において	令和4年3月
	公表の方法
	大津市ホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																		
A1 道路事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
											H25	H26	H27	H28	H29			
39-A1-1	街路	一般	大津市	直接	大津市	市町村道	改築	(都) 膳所駅南北線外3線	自由通路 0.085km	大津市						4,350		
小計（道路事業）											4,350							
B 関連社会資本整備事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	備考	
										H25	H26	H27	H28	H29				
合計											0							
C 効果促進事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	備考	
										H25	H26	H27	H28	H29				
合計											0							
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考			

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・南北連絡道路の築造により、南北間の歩行者の所要時間が短縮され、利便性の向上につながった。 ・南北往来のため、新南北連絡道路を利用した人数は838人/12hrであり、新たな歩行者ネットワークの形成により、駅南北間を自由に往来できる環境が整った。 			
--------------------------------	---	--	--	--

II 定量的指標の達成状況	指標①（歩行所要時間）	最終目標値	2.36分	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	2.36分		
	指標②（利用者数）	最終目標値	2,260人	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、南北間移動者の50.0%が新南北連絡道路へ転換するものと想定していたが、駅東側の利用者にとっては、既存の連絡道路の利便性が高く利用される方が多かったことや、南北間移動の選択肢が増えたことにより利用者が分散したことから、転換率が低くなったと考えられる。 ・過年度の駅勢圏人口の推移より将来人口の伸び率を1.077として目標値の設定をしていたが、実際の駅勢圏人口としては、当初に比べ0.996と減少しており、全体的に利用者が減少していた。以上のことから、目標値を達成出来なかったと考えられる。
		最終実績値	838人		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場、駅南北間、橋上駅とをバリアフリー動線で結ぶことにより、膳所駅や周辺施設を安全に利用できる条件が整い、新南北連絡道路の総利用者数は17,769人/12hrとなった。 				
--	---	--	--	--	--

3. 特記事項（今後の方針等）

<ul style="list-style-type: none"> ・今後、南側駅前広場を整備することにより、新南北連絡道路の利用者増加も予測されることから、各交通手段からの円滑な乗換え動線の確保や、来訪者へ地域らしさを印象付ける景観形成等を意識し、駅南側広場の整備に向け検討を進めていく。 					
---	--	--	--	--	--